

vol. 34
September
2022

JDS Network News

発行元：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）



表紙：ベトナムの蓮池

15 カ国から 262 名の若手行政官が来日しました

3年ぶりの対面 仲間との再会
ベトナムで帰国報告会・壮行会を実施

日本語能力試験合格の嬉しいニュースが届きました！

世界の朝ごはん：ベトナム

JDS The Project for
Human Resource Development
Scholarship by Japanese Grant Aid



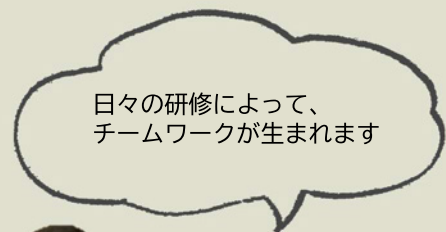
来日プログラム閉講式 キルギス留学生からお土産が贈呈されました

15 カ国から 262 名の若手行政官が来日しました

8月中旬から9月中旬にかけて、15カ国から262名の若手行政官が、JDS 留学生(修士/博士)として日本に来日しました。3年ぶりの一斉来日が叶い、合同の研修では国を超えた交流の機会となり、賑やかな景色が復活しました。

来日後のオリエンテーションでは、JDS 留学生は基本的な日本理解の講義だけでなく、帰国後には母国の政府の中枢で開発課題の解決に貢献し、二国間の架け橋となることを見据えて、「リーダーシップ研修」、「日本の開発経験」、「異文化理解ワークショップ」等の講義を受けました。

JDS 留学生たちは、これから2年間の日本での留学生生活をきっかけに、各国の開発課題解決に貢献する知識や経験を得ると共に、留学中だけでなく将来も活用できるようなネットワークを築いていくことが期待されています。



日々の研修によって、
チームワークが生まれます



バングラデシュ留学生



オリエンテーションの休憩時の様子



国旗が並ぶ光景も3年ぶりです

2022 年度 JDS 留学生データ

国(人数順): バングラデシュ、カンボジア、ベトナム、ラオス、フィリピン、キルギス、ウズベキスタン、スリランカ、モンゴル、タジキスタン、パキスタン、ブータン、ケニア、東ティモール、モルディブ

出身省庁: 財務省、外務省、農業省、保健省、教育省、中央銀行等



3年ぶりの対面 仲間との再会

ベトナムで帰国報告会・壮行会を実施

7月27日にベトナムのハノイにて、2019年度JDS留学生の帰国報告会および、2022年度JDS留学生の壮行会を実施しました。今回は3年ぶりの対面形式での実施となりました。

帰国報告会では、2019年度留学生が修士号を取得後2021年秋に母国に戻り、日本で2年間学んだ成果を発表しました。留学生からは、「大学で得た知識だけではなく、JDS留学で得たリーダーシップの知識や国際的なチームをまとめるスキルは、所属先での業務でも活用できる」といった声があがっていました。また、帰国後に初めて一堂に会す機会となり、同期留学生たちと日本での思い出話に花を咲かせました。

今年8月に来日する2022年度留学生を送り出す壮行会では、2019年度留学生、2022年度留学生に加え、現地JDS関係者を含む約100名が参加し、3年前の壮行会と同様に盛会となりました。2022年度留学生からは、「先輩から日本のことや大学の研究環境について聞くことができ嬉しい。来日が待ち遠しい。」といった声があがりました。対面で実施したことで参加者が自由に会話を楽しむことができ、ネットワークを広げる貴重な機会となりました。



華やかなアオザイに身を包む2022年度留学生



独立行政法人 国際協力機構(JICA) 久保良友次長からの祝辞

日本語能力試験合格の嬉しいニュースが届きました！

知日派・親日家の育成を目的に、今年5月から来日前の日本語研修(100時間)が始まり、2022年来日生は7月までの3カ月間日本語を基礎から学びました。8月に来日した留学生からはさっそく、「日本語を使って都内の観光や買い物を楽しんでいます！」といったコメントが寄せられています。

既に滞日中の留学生に対しても、同じく今年から日本語学習を支援する制度(日本語能力試験の合格者へ検定料の補助を行う制度)をJICEにて開始しました。今年7月の試験のあとに、留学生から「合格」の嬉しいニュースが届いています。



日本語能力試験(JLPT)N2に合格した Vannsok Vansakd 氏
(カンボジア留学生、立命館大学国際関係研究科)
嵐山キモノフォレストの前でのショット



フォー・ガー

首都ハノイからほど近いナムディン省が発祥といわれるフォー・ガー。米粉から作られた平麺に、塩とヌクナム（魚醤）で味付けした鶏ガラスープと鶏肉を入れ、香草をたっぷり加えた定番の朝ごはん。

さっぱりした味わい、小ぶりのサイズ、ハーブとお肉のバランスが朝ごはんにぴったりです。外食文化が盛んなため、露店や屋台も早朝から営業し、朝から熱々のフォーを食べることができます。

今回は、日本人ファンも多く馴染みの深いベトナムの朝ごはんをご紹介します。ベトナムと言えば、タイに次いで世界上位の米輸出量を誇る農業大国。ベトナム人は、お米を作るのも料理するのも、とっても上手。フォー、ビーフン、おこわ、お粥、米粉入りフランスパン、米づくしの朝ごはんは選択肢がいっぱいです。米離れが進んでいる日本人の食卓にも、上手にベトナム料理を取り入れて、お米を美味しくたくさん消費していきたいですね。

定番の甘〜い
ベトナムコーヒー♪



フォー・クオン

牛肉の生春巻、フォー・クオン。薄切り牛肉に、塩、胡椒、砂糖をまぶして1時間ほど寝かした後、ヌクナムで味付けしながら炒め、ハーブ・玉ねぎと一緒に、生のフォー麺の生地を伸ばした皮で包みます。

生地はもっちり・ぷるぷるで、これをヌクナム、お酢、お砂糖で作った甘酸っぱいタレにつけて食べると、お箸が止まりません。フォーと生春巻きのコラボレーション。控えめに言って、至福のおしさです。

調味料や食材も比較的手に入りやすいベトナム料理。ぜひご自宅でも作ってみてください！

JDS 3つの特徴

- 1 行政官限定事業
※一部例外がございます
- 2 5,410名 21カ国の実績
※事業終了国の人数も含む ※2021年度までの人数
- 3 大臣・局長級を輩出

対象国の社会・経済開発計画の立案・実施に関わる若手行政官が日本で修士号または博士号を取得します。

出身省庁...財務・経済、法務、行政、環境、インフラ、教育等

<事業実施対象国> ※受入人数
ベトナム、ミャンマー、カンボジア、ラオス、バングラデシュ、フィリピン、ウズベキスタン、モンゴル、キルギス、パキスタン、スリランカ、ネパール、ガーナ、ブータン、東ティモール、タジキスタン、ケニア、エルサルバドル、モルディブ

※中国は2012年、インドネシアは2006年に事業終了しました。

日本で専門知識を身に付け帰国した留学生は、日本との政策対話に携わり二国間強化に寄与する等、様々な場面で活躍しています。

人材育成奨学計画（JDS）は無償資金協力によるJICA留学生受入支援事業です。

編集後記

JDS Network News (JNN) をお読みいただき、ありがとうございます。

表紙は、ベトナムで撮影された蓮池です。蓮は、ベトナムの国花。沼などの汚れた泥のなかで美しい花を咲かせる姿は、「困難な環境にあっても、強く美しく生きるベトナム人の理想的な生き方」を象徴しているといわれているそうです。

コロナ禍という難しい状況のなか、異国の地で学ぶ留学生たちにも、日本での貴重な学びと出会い、そして母国での活躍という美しい花が咲くよう祈っています。

JDS 事業に関するご質問がございましたら、お気軽にメールで弊センターまでお問合せください。また、本誌へのご意見・ご感想もお待ちしております。

【お問い合わせ先】

一般財団法人日本国際協力センター（JICE）
留学生事業第一部留学生事業課広報担当
E-MAIL: jds.PR@jice.org